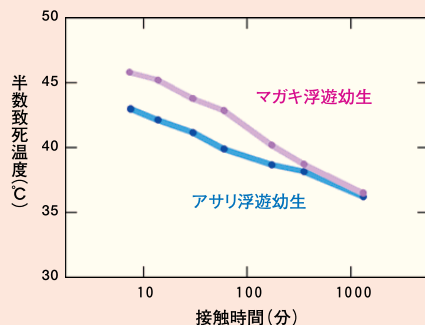


海生研では、貝類について様々な試験研究を行っています。砂浜に生息するアサリや、浅い海で岩などに付着して生活するマガキなどの二枚貝は、環境変化の影響を受けやすい生物の一つと考えられます。

図は、アサリとマガキの浮遊幼生の温度耐性を比較したものです。横軸は高温に触れている時間、縦軸は半数が死亡する温度です。本州中部海域では、アサリは春と秋に産卵し、マガキは夏に産卵します。水温の高い時期に産まれるマガキ浮遊幼生の方が、アサリより高温に強いことがわかりました。



財団法人海洋生物環境研究所は、発電所の取放水等が海の環境やそこに生息する生物に与える影響を科学的に解明する中立的な調査研究機関として、農林水産省、経済産業省、環境省の共管のもと、昭和50年に設立されました。

これまで「大規模発電所の取放水が生物に及ぼす影響の解明」「取放水域の環境調和技術の開発」「原子力発電所等周辺海域の海洋放射能調査」等の調査研究を国や民間からの委託をうけて実施しております。

海の豆知識 第14号

平成15年1月 発行

発行所

財団法人 海洋生物環境研究所

事務局 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-29 帝国書院ビル5階 ☎ (03) 5210-5961
中央研究所 〒299-5105 千葉県夷隅郡御宿町岩和田300 ☎ (0470) 68-5111
実証試験場 〒945-0322 新潟県柏崎市荒浜4-7-17 ☎ (0257) 24-8300

本海の豆知識に関するお問い合わせは、事務局までお願いします。

<ホームページ> <http://www.kaiseiken.or.jp/>

かいせいけん

海の豆知識

Vol.14

??? 魚のことわざ ???



魚のことわざ

(その13)

——ボラ——

海とその生物にまつわる^{ことわざ}諺や^{かくげん}格言についてお話ししましょう。

今回のテーマはボラです。

ボラは、川、沿岸などの人々の身近を遊泳することから、古くから親しまれ、成長につれて名前が変わる出世魚としても知られております。外洋を遊泳する大型魚ではくさみも抜け、^{かんぶりかんぼらんがれい}寒鰯寒鰯寒鰯と言われるように、寒が旬の魚です。珍味として名高い^{からすみ}唐墨は、ボラの卵巣の塩干加工品です。



1

「^{いなせ}鰯背」

イナはボラの幼魚。子供なるが故に元気がいい。魚河岸の若い衆はイナ以上に元気潑刺で勇み肌。その若い衆がイナの背に似せて結った^{まげ}鰯の「^{いなせいぎょう}鰯背銀杏」から出た言葉で、略して「鰯背」。粋で気風のいいことや容姿などに例えていう。

3

「^{いな あたまさんごうめし}鰯の頭三合飯」

魚の頭の部分は、身は少ないもののしゃぶり甲斐のある旨いところ。イナの頭があれば、それだけで沢山のご飯が食べられる、という形容。

2

「^{しおさき いな}潮先の鰯」

飛び上がっている、ということの洒落。飛び上がる＝突飛な行動をすること。潮が差して来るとき、イナが水面に跳ねることからの言葉。

4

「とどのつまり」

色々やったり煎じ詰めていったりした最後のところ。多くは平凡な結果、不首尾、若しくは否定的結果に用いる言葉。出世魚として、ハク→オボ→スバシロ→ナヨシ→イナ→ボラ→トなどと名前が変わるボラに語源がある。